

2018年1月から本会事務局職員が在ボストン日本国総領事館に赴任しています。マサチューセッツ州の州都で、米国北東部の経済・文化の中心地の一つであるボストンから、経済社会の動きについて不定期にお届けします。

## ボストン美術館の魅力とパンデミック



美術館正面にあるネイティブ・アメリカンの騎馬像「Appeal to the Great Spirit」(本コーナーのシルエット)。先住民の降伏のイメージを強調するとの批判もあり、周囲を植栽するなど新たな試みを実施し、議論を深めている

### ボストンDATA

米国北東部、マサチューセッツ州都。面積232平方km、人口約70万人。米国建国の歴史を感じる街並みや世界屈指の所蔵品を誇るボストン美術館などの文化施設に加え、ハーバード大学などを有する文化・学術都市。



宮崎 喜久代

在ボストン日本国総領事館 領事  
(経済同友会事務局より出向中)

### 幅広い地域と年代の美術品を所蔵

今年最初の熱波が到来した6月5日、ボストン美術館を訪れました。館内には、米国、欧州、アフリカ、アジア・オセアニアなど幅広い地域と、エジプト、ローマ、ギリシャなどの古代美術から現代美術までさまざまな年代の美術品が展示されており、一日で全てを見て回ることは、とてもできません。

ボストン美術館は、葛飾北斎の「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」をはじめとする浮世絵など、明治期にアーネスト・フェノロサ、ウィリアム・スタージス・ビグローが蒐集した日本美術の至宝を所蔵していることで有名ですが、日本美術のコーナーには、仏像・仏画が展示されているのみです。日本画は光に弱いことから展示されていないようですが、期間や数を限定してでも名品を展示してほしいものです。また、経済の勢いの違いが反映されているのでしょうか、中国美術のコーナーの方がかなり広く、少々寂しく感じます。

### パンデミックによる美術館運営への影響

ボストン美術館は、新型コロナ・パンデミックにより、2020年3月に閉館、9月に再開したものの、第二波の到来を受けて12月に再び閉館、2021年の2月初旬に来場者数を25%に制限して再開しました。パンデミックによる運営への影響は大きく、約750人の職員のうち、2020年4月初めに301人を一時解雇、館長の給与も6月末まで30%削減することが報じられていました。

そこで、2020年6月の年間収支報告書を見てみると、会費収入は約219万ドル(前年比約25%)、入館料収入は約373万ドル(前年比約47%)の減少となっています。

ボストン美術館は、民間組織で運営されているため、寄付や補助金を除く収入の大半を占める会費と入館料の減少による財政への影響は、小さくないと推察します。パンデミック以前からなのかわかりませんが、館内には募金箱が設けられていました。

こうした中、ボストン美術館でもオンラインを活用した児童、大人向けのアートクラスを展開しています。今後は、デジタル技術により、展示が難しい日本美術の所蔵品をリモートで楽しめる機会が増え、これが美術館の収入にも寄与するとよいのではないかと思います。

### 日本企業や邦人の協力

ボストン美術館には、コーポレートメンバーシップ(企業会員)の仕組みがあり、会費の違いはありますが、マサチューセッツ州に本社や事業所を置く企業など82社が加入、日系企業ではユニクロが参加しています。会費は、未就学児から大学生の美術教育や地域の福祉、文化遺産の保護に使用され、メンバーになると、所蔵品の鑑賞や展示会への招待の機会だけでなく、美術館のギャラリーなどを企業のイベントや接待、ウェディングパーティーなどに使えるようです。また、日本美術のコーナーにおける、内装の仏教寺院の改築と仏像の修復作業のスポンサーには大日本住友製薬が参加、さらに敷地内の日本庭園は、日本人がプリンシパルを務める造園会社ZEN Associatesが維持・管理しています。

ボストン美術館が世界でも有数の美術館とされる背景には、地域の人々や企業の支援があり、これを維持することで、パンデミックの影響も乗り越えていけるのではないかと思います。